

平成31年度 八女市立筑南小学校 学力向上プラン

■視点1-②

《中期目標・指標》
○学習への関心や意欲を高め、主体的に課題解決に取り組んだり思考の過程を表現したりする児童の育成
標準学力調査で評定1の児童15%以下の達成、家庭学習時間が10分×学年+10分以上の児童80%の達成

《短期目標・指標》
全国学力・学習状況調査で全国平均+5、標準学力調査で評定1の児童20%以下、市販テストで全学年80点以上を80%の達成

■視点5

【家庭・関係機関との連携】

- 保護者や学校関係者への学力向上に向けた取り組みの説明
- 家庭学習の手引きをもとにした計画を立てて自主的な家庭学習の習慣の定着（連絡帳に学習時間を記入。最低10分×学年以上）
- 家庭学習における「自学」の定着に向けたノート指導
- 地域と連携した児童の育成（地域行事への積極的な参加）
 - ・白木収穫祭・北山祭り
 - ・白木北山敬老会
- 小中連絡協議会の定例化
- 保小中地域連携による学校関係者評価の実施

■視点2

【授業づくり】

- 確かな学力部会を中心とした学力向上を目指す組織的取り組みの充実
 - ・問題解決学習に「書く活動」と「説明する活動」の位置づけ
 - ・学んだことを「振り返る活動」の終末段階への位置づけ、ノートへの表現
 - ・表現する場の設定と表現内容の充実
 - ・聞く態度の目標設定（毎月）
 - ・めあてとまとめの整合性のある授業
- 学力実態分析に基づく個に応じた指導
 - ・個に応じた指導（少人数指導、TT指導、繰り返し指導、取り出し指導等）
 - ・補充的・発展的な学習の工夫
- 学力調査問題、活用力を育てる教材集、県診断テスト等を活用した授業

〔重点取組〕

- 学力低位層にきめ細かな指導を行い、学力の向上を図る。（少人数、TT、取り出し指導の充実）
- 主体的に学び、活用力を身につける算数科の授業改善
 - ・発問を精選し、子どもが活発に発言する授業（表現力）
 - ・ペア、グループでの表現活動（表現力）
 - ・適用問題の精選（数学的な見方・考え方の強化・深化）
 - ・「本時の学習内容・解決の方法・学習の進め方」が含まれためあて（主体性）
 - ・キーワードを使ったまとめ、振り返る活動の充実（主体性）

■視点4

【教員の意識・指導力の向上】

- 授業研を通じた実践的研修
- 教科研究会、センター研、研究所の発表会など校外研修の積極的参加と報告会による共通理解
- テストの結果を考察し、低かった項目についての全職員での研修
- 小中連携「振り返りポイント」を設定した授業づくり

〔重点取組〕

- 全国調査、県調査、診断テスト等の採点結果からの全職員による分析、授業改善の視点の明確化についての研修
- 教員の授業力の課題に応じた研修の充実

■視点3

【学力基盤づくり】

- 読書活動の推進・充実（定期的な読み聞かせ・筑南ブックノートの活用・月1回の家読の実施）
- 朝の活動の時間活用（読書・漢字・論理トレーニング・視写・計算）
- 国語辞典の意図的活用（3年生以上）
- 体験活動の実施と充実（体験後の感想の記述、GTへのお礼の手紙）
- 筑南小スタンダードの定着（学習用具の約束・授業前、授業中、授業後の約束、家庭学習の約束）
- 学年を越えた既習事項の復習、やりなおしの徹底

■視点1-①【児童の学力の課題及び要因の考察】

- 全国、県学力調査は、全国、県平均を上回っている。標準学力調査の結果は、全国平均を上回っている学年が多い。学力低位層が多い学年もある。
- 国語科は、条件をもとに決まった時数内にまとめたり、「読むこと」の領域における登場人物の心情や場面の様子を読み取ったりすることが課題である。
- 算数科の指導体制については、少人数指導等が不十分であった。また、式、図、言葉等に関連させ、自分の考えをまとめ分かりやすく説明することが課題である。
- 上級生になるにつれて計画的・自主的な家庭学習が身につけてきているが、学年によっては家庭学習の習慣が身につけていない児童もいる。
- 授業での発表や説明、書く作業に苦手意識をもっている児童がやや多い。

